

平成 29 年 10 月 10 日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

(団体名)認定 NPO 法人 IVY
代表理事 枝松直樹

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、ご報告致します。

記

1. 企画名: せんだい地球フェスタ 2017

【形態: 相談対応サービス・講演・セミナー・その他(ワークショップ)】

2. 出張者氏名: 安達三千代、阿部真理子

3. 依頼元／主催等団体名: せんだい地球フェスタ実行委員会

4. 実施日時: 平成 29 年 9 月 18 日(月・祝) 10 時 00 分～16 時 00 分

5. 実施場所: 仙台国際センター 展示棟

6. 実施内容

国際協力、国際交流、外国籍市民団体や多文化共生団体等が一堂に会して「せんだい地球フェスタ 2017」が開催された。当日は台風の影響が心配されたが、フェスタ全体の来場者数は 7,300 人となり、国際協力・交流活動に関心のある一般市民が多数訪れた。IVY はブースで IVY の活動紹介を行うとともに、会議室で「難民を知るワークショップ」を行い、仙台市民の国際協力への理解促進に努めた。(ブースへの来場者約 420 人、ワークショップ会場来場者 58 人)

□ ブースにおいては、

- 1) 相談対応
- 2) 国際協力系の団体のブースを回り、各団体の状況について話を伺い、また NGO相談員制度の広報も併せて行った。
- 3) 来場者にクイズ「知っていますか、難民のこと」を回答してもらうことを通じて、イラク共和国エルビル県において、シリア難民・イラク国内避難民の子どもたちの教育支援や越冬支援(N連・JPF助成事業)を行っているIVYの活動を紹介することにより、来場した市民が中東の人々や国際協力活動への関心を持つよう働きかけを行う。
- 4) 来場者にクイズ「カンボジア文字で算数問題を解いてみよう」を通じて、カンボジアで小学校の算数教育支援を行っているIVYユースチームの活動を紹介。

□ ワークショップ会場においては、

- 1) ワークショップ会場では、IVYオリジナルの「難民を知るワークショップ～もしもあなたが祖国を追われたら」を行うことにより、難民の置かれている状況、日本のODAを活用した国際協力活動について紹介し、市民の理解を促進した。

- 2) 終日ワークショップが行われる会場で、相談員コーナーを設け市民からの相談を受け付けた。
- 3) 当日向けに相談員チラシを作り、ワークショップ参加者に配布したところ、参加した留学生から、国際協力活動を行いたいので団体を紹介してほしい、との相談を受け対応した。

7. 所感

- ・今回の「難民に関するクイズ」はやや難易度が高くしてみたところ、国際関係に関心の高い市民や学生との話のきっかけづくりとして効果的なツールだと感じた。
- ・一方で、IVYyouthのカンボジアクイズは、SDGsのスタンプラリーに組み込まれたことから子ども連れの家族が多くチャレンジしていただいた。
- ・また、ワークショップ等もあり、関心度合いに応じていくつかのチャンネルを設けることで、多くの来場者にアプローチできたと感じている。

以上

＜今回の「難民ワークショップ」参加者アンケートから＞

- ・生きていくことも大事なことだが、子どもの将来が特に重要であると思った。
- ・ロールプレイは、難民問題を自分のこととして捉えるのに適したやり方だと思った。
- ・難民といっても、ただ住むところがないだけではないということが、よくわかった。
- ・印象に残ったのは、子どもが、学ぶ環境が整っていないので、自分の将来に夢が持てないこと。学力が低いとレベルの高い国づくりをする人材も育たないだろう。
- ・難民に対する理解が大事。それよりも大事なものは、難民を作らないための各国の協力である。
- ・（小学生）平和であること、国民の考えを受け入れてくれる政府が必要だと思いました。
- ・（ボーイスカウトの指導者）子ども向けに体験型の難民に関するゲームを作ってみようかと思った。今回のワークショップでヒントをたくさんいただいた。

写真



IVY のブースと相談員。ODA 事業のパネルを中心に飾り付け。



難民についてのクイズをきっかけに、関心の高い来場者に説明を行った。



カンボジアの算数クイズを解く、親子連れ。



難民を知るワークショップで、難民の定義を説明。



前半に行われた多文化共生のワークショップで、留学生とのディスカッション。



ワークショップ会場でボランティアに対し、NGO 相談員について説明。

平成29年 10月 10日

外務省国際協力局
民間援助連携室長 殿

認定 NPO 法人 IVY
代表理事 枝松直樹

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたのでご報告致します。

記

1. 企画名：高校生のためのユネスコ国際理解ユースセミナー
2. 【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ワークショップ）】
3. 出張者氏名：阿部真理子
依頼元／主催等団体名：秋田ユネスコ協会
4. 実施日時：平成29年9月24日(日) 13時30分～ 16時00分
5. 実施場所：秋田拠点センター「アルヴェ」秋田市東通仲町4-1
6. 実施内容：

参加者：秋田県内高校生9人、秋田ユネスコ協会会員8人、教員1名
計18人

秋田ユネスコ協会では、中学・高校生を対象に国際理解ユースセミナーを行っている。今年度は、弊団体が「難民を知るワークショップ」を行った。

難民を知るワークショップは、弊団体のN連、JPFの資金を活用して行っているイラクにおける支援活動を元に制作したものであり、難民の現状や日本のNGOの支援活動を理解してもらうワークショップとして、東北各地で行っている。

今回参加した生徒の中に、弊団体の活動を題材として作文コンクールで一等を取った生徒がおり、実際に話を聞くことができると思い参加したとのことだった。

ワークショップの後半は、ODAについて中高生にもわかるように説明を行い、あわせてNGO相談員制度の広報も行った。また、今回の参加者向けにNGO相談員のチラシを作成し当日配布した。

相談や質問があつてワークショップに参加した生徒もあり、ワークショップ後に相談対応を行った。

<相談内容>

- ・ 将来医療に関わる仕事をしたい。医療関係で国際協力の現場で働くとしたらどんな場があるか？
- ・ IVYは、難民支援の他にどんな支援を行っているのか知りたい。
- ・ 日本国内の難民に対して、高校生としてできることはあるか？

7. 所感

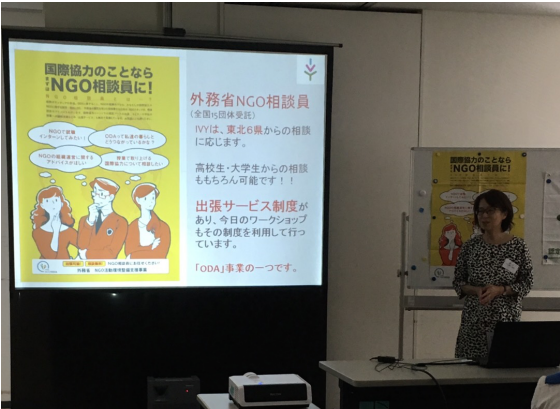
二学期制の高校の中間試験と重なり高校生の参加が少なかったが、参加した高校生は国際協力に日頃から関心の高い生徒たちであり、「難民を知る」という目的に対し真摯に取り組む姿勢が見られた。

ワークショップ後のアンケートから

- ・ 今までより、実際に難民の立場になって考えることができた。
- ・ 難民の定義がはっきりわかった。
- ・ 家族の安全を守るために必死になることも実感できた。
- ・ 自分のこととして考えるワークショップがとても有意義だった。
- ・ ワークショップを受けたことで、現在の難民の状況について自らもっと調べ、自分ができるところを探したいと思った。

以上

写真

	
参加した高校生と記念撮影	NGO 相談員制度について説明
	
誰がシリアに残るか？	導入のクイズ

2017 年 9 月 29 日

外務省 国際協力局 民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人名古屋 NGO センター
理事長 西井和裕

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

8 月 18 日付貴信にてご承認いただきました、NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名 : 「国際協力分野で働こう」における講演

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

2. 出張者氏名：

（特活）名古屋 NGO センター 田口裕晃

3. 催しの概況：

・実施日：2017 年 9 月 2 日（土）13 時 00 分～16 時 30 分

・場 所：名古屋国際センター 別棟ホール

・来場者：約 200 人

・概 要：国際連合地域開発センター、外務省国際機関人事センター、名古屋国際センターが主催の「グローバル人材育成セミナー」が開催された。そこで「NGO の活動に参加してみよう」というテーマで講演を実施し、NGO へのボランティアとしての参加方法、職業として NGO に就職する方法を紹介した。また登壇以外の時間は会場内に設けられたブースにて、参加者の個別相談に応じ、多くの相談が寄せられた。

4. 実施内容： ブース訪問者：15 人 相談対応件数：合計 15 件

●主な相談内容は以下の通り

- ・大学院で農業について学んでいるが国際協力の分野でどのように活かすことができるのか教えて欲しい。
- ・大学 3 年生でこれから就職活動が始まる。国際協力 NGO に就職するか、一般企業へ就職するかを悩んでいるどちらを選択すればよいのかアドバイスが欲しい。
- ・社会人で NGO への転職を考えているが、親からの強い反対にあっている。どうしたら親を説得できるか相談にのって欲しい。
- ・NGO の求人情報を集めるための方法について教えて欲しい。

5. 所感および効果：

20 代～30 代を中心とした学生や社会人の若者が参加者の多くを占めた。NGO で就職したい、将来 NGO で働きたい、青年海外協力隊に参加したいなど、それぞれの今後のキャリアについて、悩みを抱えている方が多かった。考えるだけでなく、まずは一方踏み出していただくよう、アドバイスをを行った。



講演[NGO 活動に参加してみよう]



熱心に聞き入る参加者



登壇者への質疑応答



ブースでの個別相談

以上

2017 年 9 月 29 日

外務省 国際協力局 民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人名古屋 NGO センター
理事長 西井和裕

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

8 月 25 日付貴信にてご承認いただきました、NGO 相談員による出張サービスを下記のとおり実施いたしましたので、ご報告します。

記

1. 企画名 : 「国際協力分野で働こう」における講演

【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ ）】

2. 出張者氏名：

（特活）名古屋 NGO センター 西井和裕

3. 催しの概況：

- ・実施日：2017 年 9 月 24 日（日）9 時 30 分～11 時 30 分
- ・場 所：名張市市民情報交流センター
- ・来場者：22 人
- ・概 要：地域と世界がつながるフォーラム in 名張実行委員会と（特活）泉京・垂井が主催する「地域と世界がつながるフォーラム in 三重県名張」の二日目の企画「持続可能な地域づくりに向けて！」における全国各地の活動事例報告の一つとして「外務省と NGO の連携」のテーマで SDGs の紹介、NGO・外務省定期協議会の紹介、NGO 活動環境整備事業の概要紹介を行う講演を実施した。

4. 実施内容：以下の項目について講演を行った。

I SDGs～多様な主体との協働～

- ・5つの P (People、Prosperity、Planet、Peace、Partnership)
- ・2030 アジェンダを貫く原則（包摂性、不可分性、相互関連性、統合性、普遍性）
- ・地域の課題をグローバルな課題と関連づけて考える

II NGO と外務省との連携～持続可能な地域づくりの視点から～

- ・NGO・外務省定期協議会の概要
 - －ODA 政策協議会
 - －連携推進委員会
 - －NGO 活動環境整備事業の概要
- ・大事にされている原則：公開、参加、透明性

III SDGs 時代の協働と連携

- ・SDGs を取り巻く現状
- ・NGO/NPO にとっての着目点
- ・コミュニケーションツールとしての価値

・私たちにできること～多様な人々との共通言語、情報と経験の交流を、仲間とつながろう～

5. 所感及び効果

地元名張市の市民団体関係者のみならず三重、岐阜、愛知の NGO/NPO 関係者、さらに遠くは九州、関東、関西の市民団体関係者が参加する盛大なフォーラムであった。各地それぞれ特徴のある活動の事例紹介があり、その中でどのような視点から NGO と外務省との連携を持続可能な地域づくりとのつながりで捉えることができるかについて、SDGs との関連に焦点を当てて講演した。

NGO と外務省との連携が持続可能な地域づくりの観点から話される機会は少なく、今後、国際協力を地域とのつながりのなかで考えるうえで、SDGs のグローバルパートナーシップの考え方が有効であることを確認した。

SDGs については市民活動関係者の間では大体知られているが、NGO と外務省が 1996 年から定期的な協議の場を持っていること、国際協力 NGO の活動環境整備を行っていること等についてはあまり知られておらず、名張市という中山間地域の小都市の市民の前で話げできたことは有意義であった。また、全国の市民活動関係者にも広く知ってもらふ機会となったことも有意義であった。



講演〔外務省と NGO の連携〕



活発な意見交換

以上

平成 29 年 10 月 10 日

外務省 NGO 相談員 出張サービス報告書

相談員 公益社団法人 日本国際民間協力会（NICCO）

大豊 盛重

<概要>

企 画 名：JICA 国際協力推進員との連携会議

イベントの種類：その他（JICA 国際協力推進員との連携会議）

実施日時：平成 29 年 9 月 13 日（水） 15 時 00 分～16 時 00 分

出張者氏名：NGO 相談員所属 3 団体 高橋美和子（関西 NGO 協議会）、古寺瑞代（（公財）PHD 協会）、大豊盛重（（公社）日本国際民間協力会）

主催団体名：JICA 関西

場 所：JICA 関西

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区協浜海岸通 1-5-2

<実施内容>

近畿ブロック NGO 相談員と JICA 関西国際協力推進員間での連携を深め相談員活動を推進するための会議。NGO 相談員と JICA 国際協力推進員間での連携を深め、相談活動を促進する。

関西地区で、これまで継承されてきた協働事業促進や各地域の新しい推進員との顔合わせや事業計画情報の共有など更なる連携、協働に向けた協議を行う。

京都府、大阪府、兵庫県に所在する近畿ブロック 3 団体が協力することにより、2 府 4 県全域を地理的にも効率的に NGO 相談員の制度を活用していただくことが期待される。

<集客人数または相談対応件数>

約 10 名

<所感及び効果等>

JICA 関西との事前の協議で、過去の NGO 相談員と国際協力推進員との連携について、各 NGO 相談員から例を提示しつつ進行した。具体的には、府県レベルのイベントでの協力や相談内容により NGO セクターから相談者の適切な JICA への引継ぎ、講演などで教育セクターからのニーズに応じた講師派遣など出張サービスの協力などを報告した。また、青年海外協力隊帰国者の NGO セクターでの受け入れなどの制度も情報共有された。加えて国際協力推進員の担当府県の国際協力の取り組みや、問題点など現状の報告を受け、NGO 相談員として協力できるか協議を行った。これらの協議により、各府県での国際協力の市民レベルの二

ーズなどが共有され、協力体制を構築できた。

<活動風景（写真記録）>



【写真①】制度説明をする NGO 相談員の関西 NGO 協議会高橋氏と NICCO の大豊の様子



【写真②】制度説明をする NGO 相談員の関西 NGO 協議会高橋氏と NICCO の大豊、PHD 協会の古寺氏の様子

2017 年 10 月 10 日

外務省 NGO 相談員 出張サービス報告書

相談員 公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)

福島 美樹

<概要>

企 画 名：シリア難民をテーマにした講演

イベント種類：講演

実 施 日 時：平成 29 年 9 月 17 日 (日) 18:00~21:00

出張者氏名：福島 美樹

主催団体名：スポーツコミュニティ World100 (任意団体)

場 所：THE BUSINESS Office178

(住所) 〒604-8123 京都府京都市中京区八百屋町 538-1 堺町錦ビルディング 4F

<実施内容>

本講義は、難民支援をはじめとした国際協力に関心のある学生や社会人が参加した。本会が実施するシリア難民支援を例に挙げ、シリア周辺国に避難した難民の現状や、国際社会の支援活動について講演した。日本では、ヨルダンやトルコなどの周辺国で過酷な生活を送る難民の姿はほとんど報道されないため、動画や写真を通して現地の状況を伝えるよう心がけた。さらに、難民の受け入れ国が抱えている多くの問題も説明しながら、多角的に難民問題を伝えた。講演後には質疑応答を行った。

<集客人数または相談対応件数>

講演：約 10 名 (台風接近のため、想定人数 30 名より大幅に減少)

<所感及び効果等>

講演後に行なった質疑応答では活発な意見が出された。例えば行政機関で勤務する男性からは「シリア難民の現状を知る良い機会になった。行政も一緒になり国際協力活動を促進できる方法はないか？」という質問が出されたり、教育関係者からは「現状をもっと知ってもらうために、学校での講義をしてほしい」という要望が出されたりした。

普段はなじみの少ないシリア問題について、参加者が真剣に考え、意見交換する場を作ることができたと感じている。

台風接近のため参加者は少なかったものの、学生や行政、教育関係者や企業の代表など幅広い分野の参加者が集まり、自身の仕事を通じて出来る国際協力を考える機会となった。

<活動風景（写真記録）>|



講演をする本会スタッフの福島

平成 29 年 10 月 10 日

外務省 NGO 相談員 出張サービス報告書

相談員 公益社団法人 日本国際民間協力会（NICCO）

大豊 盛重

<概要>

企画名：『青年海外協力隊・シニア海外ボランティア/秋募集説明会』における

NGO相談員ブース出展

イベントの種類：相談対応サービス

実施日時：平成29年9月28日（木） 18時00分～21時00分

出張者氏名：大豊 盛重

主催団体名：独立行政法人 国際協力機構 関西センター（JICA関西）

公益社団法人 青年海外協力協会 近畿支部

場所：キャンパスプラザ京都

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る

<実施内容>

独立行政法人国際協力機構関西センター（JICA関西）及び公益社団法人青年海外協力協会近畿支部では、日本と開発途上国の人々をむすぶ架け橋として、互いの知識や経験を活かした協力をすすめ、平和で豊かな世界の実現に向け青年海外協力隊・シニア海外ボランティアの募集説明会を実施している。今年度も、近畿ブロック受託団体と連携し、近畿二府四県の募集説明会上にて、NGO 相談員ブースを出展し国際協力や NGO などに関心のある一般市民の相談に応じる。

9月28日には京都府のキャンパスプラザ京都2階にて開催され、国際協力や平和構築に関心のある学生や社会人、シニア層が約50名程度来場した。

当会は、NGO 相談員コーナーを設置し、国際協力や NGO 全般に関する相談を受け付けた。学生からシニア層まで幅広い年齢層の参加者が、積極的に相談員ブースを利用していた。

<集客人数または相談対応件数>

約50名（個別対応：6名）

<所感及び効果等>

京都府の国際協力に関心の高い学生と社会人、シニア層が、NGO 相談員コーナーを利用した。シニアは自身のキャリアを活かした国際協力への携わり方等についての相談が多かった。青年海外協力隊の応募を考えている参加者は応募という明確な目的をもって来ている

が、NGO の活動に関心がある方もおられた。青年海外協力隊の派遣期間は 2 年間ということもあり、短い期間で国際協力に参加したいという参加者もおられた。国内で参加できるボランティアやインターン制度を設けている NGO を紹介するなど、情報提供を行った。看護師など資格を得るために大学で学んでおられる方からは、青年海外協力隊に応募する時期について、NGO などのインターンを経験してからがいいのかとか、帰国後は NGO に就職したいなど、将来のキャリア形成について相談を受けた。

また、開催挨拶時には国際協力分野での NGO の役割や現地での青年海外協力隊と NGO の交流や勉強会について説明した。

<活動風景（写真記録）>



【写真①】会場に設置した NGO 相談員ブース

NGO 相談員出張サービス実施報告書

(特活) 関西 NGO 協議会

1. 企画名：立命館宇治高等学校 2 年生を対象とした SDGs 概論および国際協力に関する講演
テーマ：「“SDGs” 持続可能な開発目標と私たちの生活」
2. 実施者：谷川詩織 / (特活) 関西 NGO 協議会
3. 日時：2017 年 9 月 5 日 (火曜日)
4. 場所：立命館宇治高等学校
5. 参加者：生徒約 120 名 (40 名×3 クラス)、教員 2 名
6. 実施報告：

<内容>

立命館宇治高校 2 年生の政治経済の授業で、これから国際課題研究を行う生徒を対象に講義を実施した。今回は、SDG s について、全体像とその背景、実施原則、各項目に関連する国際問題などについて講義を実施したのち、SDG s 達成に向けた具体的な取り組みの例として、世界的な課題や社会問題に対する加盟団体や当会の活動事例とその成果について紹介。また、高校生の国際協力への参加の方法の一例としてワン・ワールド・フェスティバル for Youth での高校生の活動などを紹介した。

<所感>

これから授業のなかで国際課題研究を行う生徒たちであったので、関心を持って熱心に講義を聞いていた。世界の課題を伝える際にスマートフォンやチョコレートなど身近なものとのつながりを紹介し、SDG s 紹介の際もピコ太郎氏の SDG s の「PPAP」の動画を紹介するなど、高校生にとって身近に感じられるよう工夫をし、関心を持っていただけたようである。とはいえ、SDG s の分野が多くなってしまうため、いくつかのゴールを取り上げて説明を加えるなど、SDGs の項目をかみ砕いて伝える工夫も必要だと思われる。

7. 別添（写真）



講演中の様子



立命館宇治高校校舎

以上

NGO 相談員出張サービス実施報告書

(特活) 関西 NGO 協議会

1. 企画名：学校法人大阪 YMCA 高校生事業「平和と国際理解の集い」における、『SDGs と NGO の活動』をテーマとした講演の実施
2. 実施者：高橋美和子／（特活）関西 NGO 協議会
・
3. 日時：2017 年 9 月 15 日（金）
講演時間 15 時 30 分～16 時 45 分
イベント開催時間 13：00～17：30
4. 場所：YMCA 学院高等学校
大阪府大阪市天王寺区南河堀町 9-52
5. 参加者：計 45 名
大阪 YMCA 学院高等学校、大阪 YMCA 国際専門学校国際学科、大阪 YMCA 表現コミュニケーション学科（38 名）、教員・職員（7 名）
6. 実施報告：

<内容>

大阪 YMC 高校生事業はとして、国際協力に関心のある高校生が毎年自主的に企画・実施する事業である。今年は「平和・国際協力」をテーマにしたセミナーを開催し、公益社団法人日本ユネスコ協会、大阪 YMCA 教員、関西 NGO 協議会が講師として登壇した。生徒たちは国際問題や課題、NGO の取り組みに関心を持っているものの、どのように自分たちが課題解決に向けて関われるのかについては、漠然としたイメージしかない。講演では、座学に終始するのではなく、ワークショップやディスカッションを取り入れながら自らで気づき考える機会を提供できるよう工夫した。SDGs のゴール、識字率、教育、ジェンダー格差、貧困といったテーマを取り入れたワークショップを中心に内容を構成し、SDGs の内容、背景、解決に向けた NGO の活動を説明し、SDGs 達成に向けた具体的な取り組みの例として、加盟団体や当会の活動事例を紹介した。

<所感>

生徒たちは非常に熱心にワークショップやディスカッションに参加し、積極的に発言する生徒が目立った。生徒たちの感想からは、「実際に世界でどのくらいの金額が、何に使われているかなどがよく分かった」「軍事費と教育費の比較をしたときの大きな差に驚いた」「女の子という理由で教育を受ける機会が失われる地域があることがショックだった」といった意見がみられた。また、「SDGs ゴール達成にむけて、2030 年に 30 歳となる自分たちも目標をもってできることから取り組んでいきたい」「NGO について具体的なイメージがわいてきた」という感想も寄せられた。今回の出張講演を通じ、国際課題を自らの生活に引き寄せ

て考えるきっかけを提示することができたと考える。

今回、「ワンワールド・フェスティバル for Youth ～高校生のための国際交流・国際協力 EXPO～」に昨年参加した高校生たちが企画し、NGO 相談員出張サービスに繋がった。東京圏と地方では国際協力に関する情報格差があるが、関西のネットワーク NGO として、こうした地方の教育機関との連携・関係を大切にし、出張サービス制度を活用しながら、国際課題や国際協力に関する理解者層のすそ野拡大に今後も力を入れていく方針である。

7. 別添（写真）



（撮影依頼の際、NGO 相談員のポスターを写すことを伝え忘れ、撮影されていないが、大阪 YMCA 高等学園での講演会の風景である）

以上

NGO 相談員出張サービス実施報告書

(特活) 関西 NGO 協議会

1. 企画名：龍谷大学経済学部・法学部にて、国際協力に関する講演
テーマ：「持続可能な開発目標（SDGs）と NGO の役割」
2. 実施者：谷川詩織 ／（特活）関西 NGO 協議会
3. 日時：2017 年 9 月 27 日（水曜日）
4. 場所：龍谷大学経済学部 深草キャンパス 21 号館 407
5. 参加者：龍谷大学経済学部・法学部『国際 NGO 論』受講者 30 名
6. 実施報告：

<内容>

「持続可能な開発目標（SDGs）と NGO の役割」をテーマとし、導入部では衣類やチョコレートなど生活に身近な物を切り口に、世界と日本の生活とのつながりを紹介。その後、世界の支援活動の潮流、日本の ODA、SDGs の策定背景や内容、特徴について講演するとともに、地域から国際協力を推進するにあたって、世界的な課題や社会問題に対する NGO の活動事例とその成果を伝えた。また、後半部分では、学生を対象に SDGs をテーマとしたワークショップを実施。スマートフォンを切り口に、紛争鉱物や環境問題と私たちの豊かな生活のつながりを考え、持続可能な社会の実現に向けて、SDGs のターゲットに照らし合わせながら、グループに分かれワークショップを実施した。

<所感>

SDGs については、国際協力の潮流や NGO の活動等、概論について講義した後、その内容を自身の生活と引き付けて考えられるよう、『スマホの真実』の上映と併せたワークショップを実施した。講義を聞くだけではなく自分たち自身で、日々の暮らしと国際課題がどのようにつながっているのか、その構造を考え整理し、国際協力について考える機会を工夫し提供した。参加型のワークショップは好評であった。本講義のあとの授業では、海外の紛争現場で支援活動を展開している団体が講義を引き継ぐことになっており、二段構えの形にしたことで、より深い学習と、国際課題や国際協力への関心を醸成することを期待している。

7. 別添（写真）



講演中の様子



ワークショップ発表の様子

以上

NGO 相談員による出張サービス実施報告書

特定非営利活動法人沖縄 NGO センター

1. 企画名：Summer Festa～多文化を身体でかんじよう！知ってみよう、地球で起こっていること～
2. 出張者氏名：普久原サオリ、大仲るみ子
3. 主催者団体名：沖縄アミークスインターナショナル小・中学校 PTA
4. 実施日：平成 29 年 9 月 9 日（土）10：00-15：00
5. 実施場所：沖縄アミークスインターナショナル
住所 沖縄県うるま市字栄野比 1212-1
6. 参加者：約 300 名
7. 実施報告：

【概要】

毎年開催されているインターナショナルスクールのサマーフェスティバルには、地域住民も多く参加するイベントであり、世界の多様性や課題を参加型ワークショップや展示等で紹介した。当センターのブースだけでなく、会場全体が世界の多様な文化と国際理解をテーマにしており、全体で連携しながら、国際理解の輪を広げるイベントになった。低学年の児童は民族衣装や楽器、ゲーム体験を通して世界の多様性に触れ、高学年や大人は、体験と対話により国際理解や国際協力への意識啓発につなげた。

【所感】

恒例のフェスティバルに来場した地域の方や家族連れ、またスクールスタッフがブースに立ち寄り世界の多様性を参加型ゲームやクイズ、民族衣装等で感じてもらった。インターナショナルスクールという環境からか、世界の多様性や世界の課題への興味関心が高い印象を受けた。また、「NGO」について興味を持っていた方、当センターの活動やボランティアについて知りたいという方とも直接話す機会を持つことができたことは、地域での意識啓発と今後につながる一歩となった。

8. 写真

